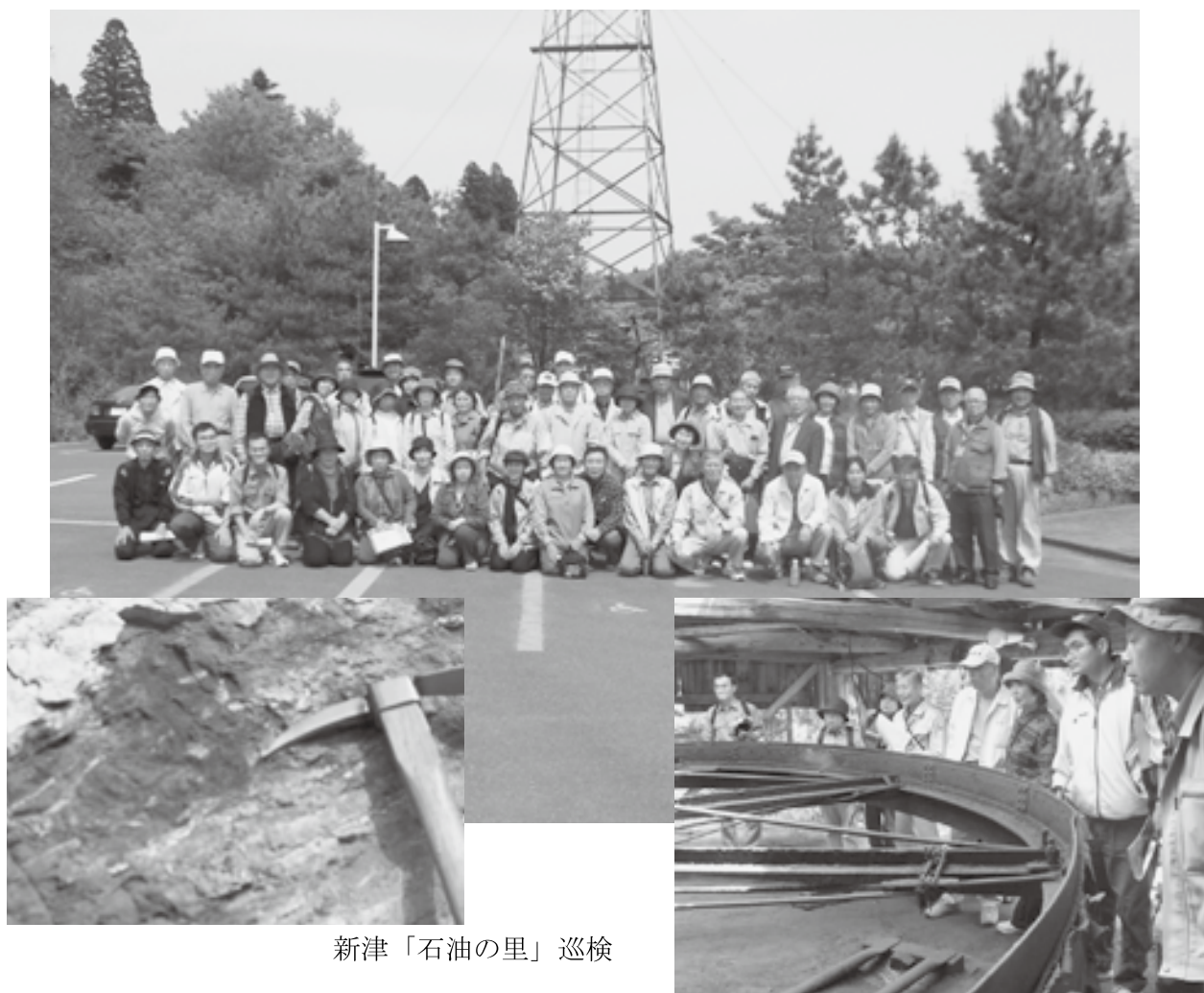


大地から学ぶ越路の

おいたち



新津「石油の里」巡検

【主な内容】

- ・「語りつぐ 10.23」の編集にかかわって
- ・「語りつぐ 10.23」－ふるさとの大地と中越地震－ アンケートから（1）
- ・「新津石油の里」巡検報告
- ・平成 19 年度総会資料
 - 平成 18 年度活動報告・平成 19 年度活動計画案
 - 平成 18 年度決算報告・平成 19 年度予算案

「語りつぐ 10.23」の編集にかかわって

編集委員会 飯川 健勝

1. 地震体験を記録に残そう

罹災の混乱から少し落ち着きを取り戻した 2006 年 5 月、「冷静な目で中越地震を振り返ってみよう」という機運が役員会の中にも見えてきました。いわゆる「中越地震体験集」の発行に向けた胎動です。日本の災害史に残る罹災体験を記録に残そうという事業の呼びかけは、大地の会として当然の成り行きと言っても良いことでしょう。

手回しよくすでに原稿依頼が進んでいた部分もありましたが、その頃になると、新潟日報社をはじめ地域新聞社の写真集に加え、「帰ろう山古志へ」（新潟日報事業社）ほか学校・団体等からの出版物が続々と店頭に並び始めていました。

2. 本を作るといふこと

良くても悪くても、印刷された本は、「どこかで 100 年は生き残っている」ことを念頭に置かなければなりません。私は編集委員長を引き受けるにあたって、ありきたりのものではなく、大地の会ならではの、独創的な章立てでなければならない、と考えました。

また 2005 年 8 月には「中越地震調査団」（地団研）が「専報 54」として被害と地盤の関係について報告書（2005）を出版し、中越地域にはすでに 2000 冊以上が出回っていましたが、その解説的な平易な出版物の必要性も感じていました。あわせてこの出版は、大地の会の年来の諸活動の中のひとつであることも読者には理解していただきたいと考えました。

財政面は、当初特別会計を視野に入れておりましたが、幸い新潟県中越大震災復興基金からの支援を得る事ができました。

3. 当初の編集方針

編集委員会はみんな経験の浅い素人集団です。間違い・取り違いは当然起こりうることであり、恥ずかしいことではありません。委員会の発足にあたり、私は次の項目を提案し承認されました。

- ① 読者対象は、大地の会とその周辺の方々とする。
- ② 店頭販売はせず頒価とする。

- ③ 構成は、第 1 部：体験集（70 人前後） 第 2 部：「専報 54」の解説版 第 3 部：大地の会の活動とおいたち とする。

- ④ 本の様式は、B5 版 横書き 文字は 11 ポイント 250 ページ前後とする。

- ⑤ 発行部数は 500 部とする。

第 1 部はともかく、第 2 部は基本的に専報 54 の引用・複製であることから、当初は出版を大げさにはしないことを前提に考えておりました。しかし執筆された罹災者の方々の、その体験を伝えないではいられない熱い思いに圧倒されることとなりました。

4. 方針変更と内容のより充実を図って

急遽、執筆者は罹災地を中心にさらに広域にわたるよう、新たにお問い合わせの方々を発掘し、あわせて罹災状況を客観的・統一的に把握するためアンケートのお願いをしました。前者は 89 名、後者は 83 名の予想を超える方々が応じて下さいました。そして体験談とともに貴重な分析結果が得られました。また「震災復興基金」の趣旨に沿って頒布対象も当初予定のほか中越地震調査団・中越地域の各学校・行政・図書館・公民館等にも視野が広がって行きました。

こうなると配布対象は不特定多数となり、地質コンサルなどプロの方々も視野に入れなければなりません。すなわち第 2 部は「専報 54」の引用・複製のみでは済まされなくなり、項目の新設や全面書き換えが必要になりました。内容の量的増大もともなって B5 版から A4 版への変更も余儀なくされ、当初計画から 4 ヶ月遅れの 2007 年 2 月漸く発行の運びとなりました。

5. 出版祝賀会と 2 刷の増刷

多くの方々のご尽力・ご協力で自主サークルでは類例のないタイプの大著となりました。1 ヶ月余りで 1000 部の発行は底をつき、800 部の 2 刷り増刷となりました。配布対象・頒価等素人集団故の今後への課題もありましたが、80 余名が出席された出版祝賀会の喜びやこの編集・出版を通してともに身に付けた経験はきっと次の発展につながることでしょう。

「語りつぐ 10.23」ーふるさとの大地と中越地震ー アンケートから（1）

中越地震体験集はたくさんの方々からお読みいただきました。事務局に寄せられたアンケートの一部をお知らせします。皆様からのご意見を拝見し、発刊してよかったと改めて感じさせられます。なお、設問は以下の内容でお願いしました。

- ①本書のどの内容に興味をもたれましたか。
- ②今後の防災に役立つと思われましたか。
- ③その他 ご意見・ご感想など。

アンケートをまとめると、①については、第1部と第2部に関心を寄せられた方が多かったようです。第1部の体験記は、体験者の生の声が綴られていて迫力があつた、多くの教訓が含まれていて大変参考になったなどのご意見を頂きました。第2部については、地質の専門家の解説は大変参考になったなどのご意見をいただきました。

②については、多くの方から、災害時の行動や日ごろの備えなどで役に立つというご意見をいただきました。

③については、体験記や大地の会に対する温かい励ましのお言葉をたくさんいただきました。

【頂いたアンケートから】

川口町 Mさん （体験記執筆者）

①語りつがねばならない震災を広く生の声をまとめて下さいましたこの誌を大切にしたいと思います。まだ、読み足りませんが復興される各地を見て回りたいと思います。

長岡市 Hさん （体験記執筆者）

③栗山沢、半蔵金、中野俣と本当に山間部地帯に対する行政の対応の遅れは、読ませていただいて痛いほどによくわかります。これは市の中心部の被害が少なく、声を大にしても通じなかった思いが多いように感じました。行政の遅れを痛切に感じました。

仙台市 Nさん

③第2部と第3部は結構な報告に仕上がっています。地盤の崩壊ー変形について、もっと具体的であればよかった。

新津石油の里友の会 島津光夫さん

③300ページに及ぶ大冊で、よくまとめられたものと感心致しております。生々しい体験記、アンケートの集計、地学的な解説など貴重で興味のある内容で今後の防災にも役立つ立派な報告集と思います。

群馬県下仁田自然学校 小林忠夫さん

③刊行おめでとうございます。すばらしい作品ですね。よくこれだけのものをまとめ上げたものだ、とみなさんの努力に感心しました。懐かしい人々がたくさん登場し、30年前の昔を思い出しました。しかし、それが地震を境にすっかり変わってきたこともわかりました。そういう意味でも、これは貴重な記録ですね。3部構成もいいですね。

やはり、第1部が圧巻です。89名の証言はすごい。なかから元気で頑張っている昔の友人を沢山見つけました。でもみんな歳をとりました。

第1部があつて、第2・3部が活きてきますね。しかし、逆にこちらからみることで、第1部の「生きた証言」の意味がわかってくる部分もあると感じました。すばらしい構成だと思います。そしてすべてが貴重な記録です。

この本は、下仁田自然学校の蔵書として、有効に利用したいと思います。越路の大地の会のますますの発展を期待しています。これからも、「自然学校」交流会で、おつきあいができれば幸いです。